

教科	科目	必修・選択	履修条件	単位数	開講学習期間
芸術	書道 I	必修	なし	3単位	1・2・3
開講曜日	開講時間数	必要時間数	必要一斉時間数	テスト回数	レポート枚数
日曜	15時間	12時間	8時間	3回	9枚

### 科目紹介と履修上のアドバイス

小中学校で学んできた書写は、文字を正しく整えて書く力をつけることを目標とする国語科の単元でしたが、高等学校の書道は、書写で身につけた力を基盤としながら、芸術としての書の美を表現し鑑賞する能力を伸ばしていくことを目標とする芸術科目です。手本は中国・日本の漢字や仮名の古典です。書体や書風の異なる筆跡を手本として、字形や用筆の特徴をよく観察し忠実にまねて書くことで、様々な表現技法を理解し、基礎的な技能を身につけます。学んだ技法を生かして、自分の意図に基づく創作にも取り組みます。実技科目なので、繰り返し練習する姿勢が大切です。教科書の動画の視聴や関連資料を大いに活用して筆使いの理解に役立てましょう。

教科書	書道 I (東京書籍)	学習書	書道 I 学習書 (NHK出版)
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、基礎的な技能を身に付け、表すことができる。	書の上さや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し表現を工夫することができる。作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	書の伝統と文化に豊かに関わることができる。生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書の表現や鑑賞など幅広い創造的活動に主体的に取り組むことができる。

### 面接指導計画

回	学習内容	教科書ページ	レポート	回	学習内容	教科書ページ	レポート
第1回	漢字の成立と変遷、臨書	4~17	1	第11回	仮名の成立と変遷	80~83	7
第2回	九成宮醴泉銘「清泉」	24~25	1	第12回	平仮名「いろは歌」	84~85	7
第3回	楷書の書風と用筆	18~19	2	第13回	連綿と変体仮名	86~89	8
第4回	自書告身「制度」	32~33	2	第14回	古筆「蓬莱切」	90~91	8
第5回	行書・蘭亭序「永和」	42~52	3	第15回	生活に広げる書	128~134	9
テスト	レポートNo.1~3			テスト	レポートNo.7~9		
第6回	隷書・曹全碑「世紀」	66~69	4				
第7回	漢字仮名交じりの書・表現	110~119	5				
第8回	漢字仮名交じりの書・創作	120~125	5				
第9回	漢字仮名交じりの書・鑑賞	126~127	5				
第10回	篆書・泰山刻石「皇帝」	70~73	6				
テスト	レポートNo.4~6						